

## 事業概況報告

本財団の諸事業は、「調査・研究」「助成・協賛」「普及・啓蒙」の各事業と「審査登録センター」の四部門を柱に展開しています。

### 1. 調査・研究事業の部

#### 1) 研究図書出版

『地球環境研究』の発刊

『地球環境研究』は、調査・研究部門における報告書として発刊を行っています。各環境分野の専門家によって調査研究された結果を取りまとめた本冊子は、学術冊子としても評価を受けています。今期は発刊しておりません。

#### 2) 地球環境総合研究機構

平成 11 年度より LUCC 研究所 (Institute of LUCC、略称 ILUCC) として活動してまいりました同研究所は、更なる発展を目指し、地球環境総合研究機構 (Framework for the Research of Earth Environment, FREE) として再発足いたしました。同機構は、地球環境問題の実態と保全策を総合的な環境政策的観点から考究することを目的に、土地利用・被覆、都市・農村環境、森林環境及び海洋環境等の総合的地球環境論の研究とともに、それらの問題に共通する環境政策論、環境経済論、環境 RS・GIS 論、さらに環境ビジネス論、環境情報論なども合わせて研究し、これらに基づく地球環境問題に関する総合的環境政策論を考究します。本研究機構は、『地球環境総合研究所 (Institute for the Study of Earth Environment, ISEE)』、『環境ビジネス研究所 (Institute for the Research of Environmental Business, IREB)』及び『環境情報研究所 (Institute for the Research of Environmental Information, IREI)』の 3 研究所で構成されています。

地球環境総合研究所 (ISEE) は、今日の地球環境問題を、土地利用・被覆、都市・農村環境、森林環境及び海洋環境といった人間活動に密着する実態から捉えるとともに、それらの保全策に不可欠な環境保全論、環境政策論、環境経済論、環境文化論、環境圏域間分析等を、総合的な環境政策的観点から考究することを研究の課題とします。

環境ビジネス研究所 (IREB) は、環境ビジネス業界に不可欠な環境ビジネス経営、重要環境ビジネス製品の開発などに注目し、社会的実践性の高い研究とともに環境にやさしいエコ・ビジネスに関する提言をも取りまとめていくことを研究の課題とします。

環境情報研究所 (IREI) は、膨大な地球環境情報を如何に収集し、管理・保管する方法、環境情報の検索並びに地球環境保全に役立つ環境情報体系の確立を考究していくとともに、環境 RS・GIS 論 (RS: リモートセンシング、GIS: 地理情報システム) を含め、それらの基礎となる環境情報処理の開発を主たる研究課題として活動を展開します。

#### 【地球環境総合研究所 (ISEE) の活動】

2002 年 12 月 10 日 第 1 回地球環境研究委員会

2003 年 2 月 25 日 第 2 回地球環境研究委員会

2003 年 3 月 17 日 第 1 回地球環境研究会議

基調講演「地球環境研究の総合化へ向けて」

講師：田中啓一氏 (日本学術会議地球環境研究連絡委員会 委員長)

## 2. 助成・協賛事業の部

自然環境の保全と創造に関連する分野での研究を対象とした「地球環境財団研究奨励金」をはじめとして、自然保護活動への助成・協賛を行いました。

### 1) 第14回地球環境財団研究奨励金

地球規模ならびに地域の自然環境の保全と創造に関連する分野の研究を奨励し、学術の振興および社会の発展に寄与することを目的とした研究奨励金制度も、本年度で14回目を迎えました。本奨励金制度は、自然科学のみならず、人文・社会科学に亘る幅広い研究分野を対象とする助成金制度として定着してまいりました。

第13回地球環境財団研究奨励金は、74件の応募に対し15件、合計3,200,000円を交付いたしました。また、第14回地球環境財団研究奨励金は、95件の応募について、近藤次郎(本財団参与、元日本学術会議会長)審査委員長を中心とする審査委員会にて厳正な審査を行った結果、以下の17件に対して研究奨励金を交付する予定になっております。

#### 第14回地球環境財団研究奨励金の研究題目

- 村井 秀樹 (日本大学商学部 助教授)  
「持続可能な森林経営と排出権取引 - 環境付加価値の創造と会計問題 - 」
- 藤田 陽子 (琉球大学法文学部経済学専攻 助教授)  
「亜熱帯島嶼地域における生物多様性の経済的価値の解明」
- 佐々木 綾子 (京都大学大学院農学研究科森林科学専攻 博士後期課程)  
「タイ北部山地林における伝統的農業の土地利用形態とその変動」
- 山下 博司 (東北大学大学院国際文化研究科 教授)  
「アジアの伝統的リサイクル文化と、水をめぐる環境倫理についての国際共同研究」
- 荒城 義雄 (財団法人日本科学技術振興財団科学技術館運営部 F5 ワークス 非常勤講師)  
「持続可能な循環型社会の構築を目指す環境教育・環境学習 - 酸性雨のモデル授業(ワークショップ開催を通して) - 」
- 今川 洋 (徳島文理大学薬学部 助手)  
「環境ホルモンノニルフェノールセンサーの合成」
- 斉藤 勝美 (秋田県環境センター 上席研究員)  
「樹氷中の化学組成による長距離移流汚染の評価」
- 杉森 大助 (福井工業高等専門学校物質工学科 助教授)  
「油脂高速分解能を有する低温菌の探索」
- 福士 謙介 (東京大学環境安全研究センター 助教授)  
「ヒ素メチル化細菌による汚染土壌の浄化プロセス開発」
- 妹尾 啓史 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)  
「有機塩素系農薬長期連用土壌の脱塩素能力の評価と環境浄化への利用」
- 永瀬 裕康 (大阪大学大学院薬学研究科 助手)  
「環境水中から検出されている環境ホルモン農薬の微生物分解法の開発」

- 春山 成子（東京大学大学院新領域創成科学研究科 助教授）  
「都市近郊の産業廃棄物集中の空間分析」
- 武田 美恵（東京工業大学大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻渡邊研究室 博士後期課程）  
「人工改変土壌の緩衝能評価法の構築に関する基礎的研究」
- 野々村 敦子（香川大学工学部安全システム建設工学科 助手）  
「GISと衛星データを用いた緑化困難地域・直島における土壌特性調査」
- 寺尾 仁（新潟大学工学部 助教授）  
「市町村合併後の市町村有林入会の管理運営に関する研究」
- 梅村 知也（群馬大学工学部応用化学科 助手）  
「人間活動由来の大気環境汚染を評価する樹木入皮を用いた新環境計測手法の開発」
- 小川 早枝子（特定非営利活動法人 E.N. 荒川・江川 理事長）  
「埼玉県江川下流域（サクラソウトラスト地）における絶滅危惧植物群落形成による湿地再生に関する研究」

## 2) 信州緑を守り育てる会

200,000 円

信州緑を守り育てる会（長野市南保 2351-22、青木猛会長）は、森林自然観察会や植林まつり、講演会、映写会などを通じて信州の森林資源を保護・育成している団体です。こうした環境保全団体に対しても、本財団ではその活動を応援するための助成事業を行っています。

また、全国で植樹募金を実施し、より多くの方々のご厚志を森林保護のために活用させていただいております。

### 3. 普及・啓蒙事業の部

#### 1) 催し物・イベント

##### 「エコライフ・フェア 2003」

開催：平成 15 年 5 月 31 日～6 月 1 日

会場：都立代々木公園ケヤキ並木ほか

毎年、環境の日（6 月 5 日）を中心に環境保全についての理解を深め、環境保全活動の取り組みを促進するため、6 月は環境月間として様々な行事が実施されています。その主たる行事の一つとして、「エコライフ・フェア」が環境省、東京都、関連の法人、業界団体、企業、民間団体の連携の下、1990 年以来開催されてきました。

「エコライフ・フェア」は、エコロジカルなライフスタイルを実現し、広めていくことを目的として、政府、地方自治体、事業者、国民、NGO が積極的に環境保全活動に取り組むよう、環境問題の現状と将来について、誰にでも分かりやすい内容で紹介し、環境保全の大切さを理解してもらうとともに、積極的な参加を促すことを趣旨として展開しているものです。

今回は「はじめています。地球にやさしい新生活」をテーマに実施いたしました。

#### 食養士・管理食養士養成講座

##### (1) 食養士養成講座

食の本来の目的は、食で身体と精神の健康をはかり、活力ある生命の営みを維持することにあります。正しい食の普及のために、東洋医学や食養と栄養の歴史を学び、「医食同源」に基づく食の本質を知るための本通信教育講座は、特定非営利活動法人全日本健康自然食品協会の協力をいただき第 5 回の開催となりました。

この講座では、食養学、人間栄養学、代替医学、農薬、食品添加物、産地や原材料、生産加工、流通等、食を取り巻く循環過程や環境問題を広く学ぶことにより、食の質的向上のための実践的手法を解説しています。規程の学科目を修得し、地域の健康づくり、食環境づくりのリーダーとして広く人々の健康維持に貢献することのできる能力と資格を持つ人材を食養士とするものです。

本年度はスクーリングを含めて 85 名が受講され、69 名に食養士の認定書が発行されております。

##### (2) 管理食養士養成講座

食養士養成講座の上級コースとして、開講された本通信教育講座は、食養士養成講座同様、全日本健康自然食品協会の協力をいただき、より高度な知識と理論を持つ専門職としての資格をもつものです。

この講座は、食や健康に関する知識を習得していることを前提とし、食養士・栄養士・医師・薬剤師などの資格保持者を対象に、食養史・代替医学、ミネラル栄養学、病態栄養学、薬草・薬膳論、自然医学論、自然食品マーケティング論、環境管理・監査論等、専門研究科目を修得し、食材だけでなく環境や健康までも視野に入れた食のスペシャリストを育成し、豊かな食文化の創造と国民の健康づくりへの貢献を目指すものです。

第 2 回管理食養士講座は 51 名の受講生のうち 42 名が管理食養士として認定されております。

#### 環境シンポジウム in 斜網

##### 「地球環境時代における農山漁村のあり方 - 地球温暖化による影響と新たな付き合い方 - 」

開催：平成 14 年 10 月 25 日

会場：ゆめホール知床 公民館ホール（斜里町）

地球環境は日を追うごとに益々深刻化してきています。特に二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球環境への影響が考えられ、今後我々の暮らしや産業活動への影響がより一層懸念されています。このような中で、豊かな土壌、及びオホーツク海という海洋資源の宝庫を抱えた斜網地域の農山

漁村において、地球温暖化が及ぼすと思われる第一次産業への影響を取りあげ、地域の方々とともに今後の地球環境時代における農山漁業のあり方、暮らし方、その中での官民の役割、なすべきこと等について、新田義孝氏（財団法人電力中央研究所 研究参事）、福岡克也氏（財団法人地球環境財団理事長）の講演の後、ディスカッションを行いました。

後援：北海道開発局網走開発建設部、北海道網走支庁、斜里町、網走市、清里町、小清水町、美幌町、津別町、女満別町、東藻琴村、財団法人北海道環境財団、財団法人オホーツク地域振興機構、社団法人日本緑十字社、緑の文明学会、斜里町農業協同組合、オホーツク網走農業協同組合、清里町農業協同組合、小清水町農業協同組合

#### 【後援・協賛名義】

- ・ 「ウェステック 2002」協賛 ウェステック実行委員会主催  
平成 14 年 11 月 26 日～11 月 29 日
- ・ 「手でみる展覧会-4・くるりんぱ展」後援 横浜美術館主催  
平成 15 年 3 月 9 日～3 月 23 日
- ・ 「第 4 回アジア圏での資源循環ネットワークの展開」後援 学校法人早稲田大学環境総合研究センター / 財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構主催  
平成 15 年 3 月 14 日
- ・ 「第 1 回溶融氷飛灰資源化シンポジウム」後援 学校法人早稲田大学総合研究機構 / 学校法人早稲田大学環境総合研究センター主催  
平成 15 年 5 月 19 日
- ・ 「第 9 回日本計画行政学会計画賞」後援 日本計画行政学会主催  
平成 15 年 5 月 20 日～11 月 17 日
- ・ 「エコ・グリーンテック 2003」協賛 エコ・グリーンテック実行委員会  
平成 15 年 5 月 21 日～5 月 23 日
- ・ 「なごやの建物緑化推進フォーラム」後援 雨水利用と緑化を進める会主催  
平成 15 年 6 月 7 日
- ・ 「カラダでみる展覧会・くるりんぱ展」後援 ふなばしアンデルセン公園こども美術館「くるりんぱ展」実行委員会主催  
平成 15 年 8 月 1 日～8 月 31 日
- ・ 「ナチュラル E X P O 2003」後援 N P O 全日本健康自然食品協会主催  
平成 15 年 10 月 9 日～10 月 11 日

## 2) 啓蒙図書出版

毎月1回発行される機関誌「Earthian(アーシアン)」は、グローバルな地球環境問題をはじめ、企業やNGOのリサイクルへの取組、地域での自然保護活動など様々な角度から環境問題を取り上げています。

### 機関誌「Earthian(アーシアン)」の主な内容

- ◇ 平成14年11月号(通巻203号)  
ホメオスタシスを失う環境(1)  
NYカラス事情と西ナイルウイルス
- ◇ 平成14年12月号(通巻204号)  
ホメオスタシスを失う環境(2)  
使ってますか?再生紙!
- ◇ 平成15年1月号(通巻205号)  
ホメオスタシスを失う環境(3)  
「地球環境総合研究所」設立のごあいさつ
- ◇ 平成15年2月号(通巻206号)  
ホメオスタシスを失う環境(4)  
地球環境とは
- ◇ 平成15年3月号(通巻207号)  
「地球環境総合研究機構」設立のお知らせ  
地球環境問題
- ◇ 平成15年4月号(通巻208号)  
地球環境・水資源・市民  
地球環境問題の系譜
- ◇ 平成15年5月号(通巻209号)  
世界水フォーラム(大阪)子ども宣言  
地球温暖化  
地球環境と都市環境の共生(1)
- ◇ 平成15年6月号(通巻210号)  
地球環境・水資源・市民  
オゾン層の破壊  
地球環境と都市環境の共生(2)
- ◇ 平成15年7月号(通巻211号)  
くぬぎ山自然再生計画について  
酸性雨
- ◇ 平成15年8月号(通巻212号)  
循環型社会の目指すもの  
「シャボン玉:地球君」の言い分 - 都市型地球環境問題 -
- ◇ 平成15年9月号(通巻213号)  
地球時代の混乱と環境修復の遅れ  
農地の崩壊

◇ 平成 15 年 10 月号 (通巻 214 号)  
異常気象への根本的対応が必要  
砂漠化

### 3) 普及・啓蒙活動

#### 環境対策推進委員会

94 年に設置された本委員会は、地域での環境保全に取り組むボランティアの人々を応援することを目的として組織されています。門馬義芳委員長(本財団理事、日本ライフ㈱取締役社長)を中心に、情報交換などを行ってきました。

委員の方々が取り組んでいる問題には、リサイクルの推進や水質浄化など様々ですが、地域での活動においての問題点や改善すべきポイントなど、活発な意見交換の場として今後も運営してまいります。

#### 環境ビデオの貸し出し

環境問題の理解をより広く促すため、「エコライフ・フェア」で上映された環境啓蒙用ビデオの貸し出しを行い、各種講習会や勉強会で活用されております。現在貸し出されている環境ビデオのタイトルは以下の通りです。

- 「地球環境はいま...」(平成 3 年度)
- 「エコライフをめざして」(平成 4 年度)
- 「みんなで守ろう!地球環境」(平成 5 年度)
- 「地球となかよくつきあおう」(平成 6 年度)
- 「守ろう!みんなの地球 みんなの力で」(平成 7 年度)
- 「環境先進国ドイツの取り組み」(平成 8 年度)
- 「あなたが止める 地球温暖化」(平成 9 年度)

#### 環境プランナー認定業務

環境プランナーを養成する機関の認定業務を行っております。

#### 4. 審査登録センターの事業

国際標準化機構（International Organization for Standardization：ISO）に定められた品質マネジメントシステム ISO 9000 シリーズおよび環境マネジメントシステム ISO 14001 の審査登録業務は、本年度で 3 年目となりました。ISO 国際規格の普及によって、日本企業の経営システムのグローバルスタンダード化はますます進むものと考えられますが、本財団の審査登録事業もそうした機運を後押しするための必要な人材や情報を提供しつつ、質の高い審査登録を目指しております。

平成 15 年 9 月 30 日までに品質マネジメントシステム（ISO 9000 シリーズ）では 15 件、環境マネジメントシステム（ISO 14001）では 10 件の審査登録を行いました。

##### ISO9000 シリーズ

---

FEEQM-0001：株式会社八田測量	ISO 9001：1994 / JIS Z 9901：1998
FEEQM-0012：塩尻商工会議所	ISO 9001：1994 / JIS Z 9901：1998
FEEQM-0015：有限会社新興測量企画	ISO 9001：2000 / JIS Q 9001：2000
FEEQM-0017：株式会社峡東測量設計	ISO 9001：2000 / JIS Q 9001：2000
FEEQM-0018：雄測量設計株式会社	ISO 9001：2000 / JIS Q 9001：2000
FEEQM-0019：株式会社アトラス測量	ISO 9001：1994 / JIS Z 9901：1998
FEEQM-0020：株式会社小俣測量	ISO 9001：1994 / JIS Z 9901：1998
FEEQM-0021：株式会社ケイ・デー・タイン・ニア	ISO 9001：1994 / JIS Z 9901：1998
FEEQM-0022：株式会社テック・インジニア	ISO 9001：1994 / JIS Z 9901：1998
FEEQM-0024：株式会社サントラス	ISO 9001：2000 / JIS Q 9001：2000
FEEQM-0025：株式会社藤建設	ISO 9002：1994 / JIS Z 9902：1998
FEEQM-0027：西美繊維株式会社	ISO 9001：2000 / JIS Q 9001：2000
FEEQM-0028：株式会社北陸電工	ISO 9001：2000 / JIS Q 9001：2000
FEEQM-0029：株式会社新都市二十一	ISO 9001：1994 / JIS Z 9901：1998
FEEQM-0030：柏熊建設株式会社	ISO 9001：2000 / JIS Q 9001：2000

##### ISO14001

---

E0001：株式会社「北」生活科学研究所 P'S Bioファクトリー	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0002：三友「フ」ラントサービス株式会社横浜工場	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0003：東鉄企業株式会社	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0004：株式会社「シー」クリエイション「フ」ランニング	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0005：株式会社バイオックス群馬工場	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0006：株式会社創健社	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0007：株式会社「チャ」ル「フ」ル「フ」本社	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0008：早来工営株式会社早来支店	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0009：早来工営株式会社札幌工場	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996
E0010：有限会社シンテック	ISO 14001:1996 / JIS Q 14001:1996

## 5. その他

### 1) 「ちきゅう信託」「かんきょう信託」「社会貢献信託」の取り扱い状況

平成3年度からスタートした三菱信託銀行「ちきゅう信託」、みずほアセット信託銀行「かんきょう信託」、中央三井信託銀行「社会貢献信託」の取り扱い状況は、預託者の方々の支えにより、下記の金額を維持しております。

これらの信託は、預託された元本から発生する収益金が自動的に本財団に寄附され、2年後ないし5年後の満期日には元本が預託者へと返還される仕組みとなっています。

平成15年9月30日現在の各信託銀行の残高は次の通りです。

三菱信託銀行 「ちきゅう信託」	137,226,436 円
みずほアセット信託銀行 「かんきょう信託」	9,200,000 円
中央三井信託銀行 「社会貢献信託」	13,642,800 円
3行合計	160,069,236 円

### 2) 寄付金

地球環境の保全および保護を目指す本団体の活動に対して、当期も多くの方々から寄付金が寄せられました。

#### 第17期寄付者一覧(平成14年10月～平成15年9月)

団体名・氏名	金額
(株)コーセー	578,576
日本信販(株)	552,008
小田急商事	248,000
植樹募金寄付者	141,501
藤本倫子	100,000
三菱信託銀行「ちきゅう信託」加入者	38,314
小林慶博	24,000
横浜美術館 くるりんぱ	16,723
岩沢イチ	14,000
パラディ	7,702
中央三井信託銀行「社会貢献信託」加入者	4,202
松岡良男	4,000
坂井真由美	3,000
みずほアセット信託銀行「かんきょう信託」加入者	2,065
福島孝	500
小山喜市	500
合計(円)	1,735,091

